大阪市環境影響評価専門委員会（水質廃棄物部会）会議要旨

１　日　時　　令和３年12月１日（水）16時00分～18時00分

２　開催場所　ウェブ会議の方法により開催

３　出席者　　専門委員会委員：乾委員　嶋津委員　西村委員

事　　業　　者：公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会

連絡会委員：環境局環境管理部環境管理課長　他

事　　務　　局：環境局環境管理部環境管理課

４　議　題　　２０２５年日本国際博覧会環境影響評価準備書について

５　議事要旨

・　準備書の内容等について事業者から説明があった。

・　水質、土壌、廃棄物・残土に係る準備書の内容について審議を行い、指摘・意見を次のとおり取りまとめた。

〔水質について〕

・　工事中の排水について、ウォーターワールドから海域への放流については、関係機関と協議の上、適切に監視されたい。

〔廃棄物・残土について〕

・　開催中に発生する廃棄物については、過去の博覧会を上回る世界最高レベルの目標を掲げ、以下をはじめとする新たな取組に果敢にチャレンジするとともに、万博アプリの活用によるポイント付与やデポジット制の導入等により、実践をサポートすることで、その実効性を確保し、行動変容につなげる必要がある。

　＊　来場者の飲食等については、循環型ライフスタイルを体感する契機と捉え、ワンウェイのプラスチック製容器包装の持ち込み禁止、マイバッグやマイボトルの提供、リユース食器・カトラリーについては再生材やバイオマスプラスチック素材等の採用と会場内での仕様の統一化・共有化等に取り組むとともに、食品ロスについては需要予測に加えフードシェアリング等により最大限に削減すること。

　＊　分別・回収にあたっては、分かりやすいピクトグラムの導入に加えて、案内係の配置やIoT・AI・ロボティクス等の技術の活用により、海外からの来場者を含め、多様な全ての来場者による取組を促進すること。

・　資源循環の高度化の取組はSDGs達成に向けて重要であり、世界共通の課題であることから、これらに関する実証・実装プロジェクトを実現されたい。

・　廃プラスチック類のリサイクル率については、産業廃棄物排出・処理状況調査報告書に記載されている全国の種類別再生利用率実績値（令和元年度）をそのまま採用しているが、廃棄物の発生抑制の徹底やリサイクル率の向上などにより、最終的な処分量を可能な限り削減されたい。

・　パビリオンなどの建設・解体工事にかかる廃棄物削減のための取組については、撤去後の資材等のリユースが促進されるよう来場者を含め広く情報を発信するだけでなく、建材のリユースがソフトレガシーとして後世に受け継がれるよう、リユース先の建物等に博覧会の建材が再利用されていることを証する情報を付して提供されたい。

・　撤去後のリユース、リサイクルにあたっては、出展者によるさらなる取組を促進するため、リユース等の手法やその量についてモニタリングを行い、事後調査報告書に記載されたい。

６　問合せ先

環境局環境管理部環境管理課

住所　〒559-0034　大阪市住之江区南港北２‐１‐10　ATCビルO's棟南館５階

電話　06-6615-7938